

## 岩絵の具とその原料

写真1は、日本画で使用される「岩絵の具」という絵の具です。絵の具といっても中に入っているのは粉末のもので、水に混ぜても溶けることはありません。というも、岩絵の具は鉱物などを粉末にしたものなのです。

例えば「丁子茶(ちよじちゃ)」は「虎目石」を粉末にしたもの、「松葉緑青」は「孔雀石」を粉末にしたもの、「岩群青」は「藍銅鉱」を粉末にしたものです。



写真1. さまざまな色の岩絵の具



「虎目石」と「丁子茶」



「孔雀石」と「松葉緑青」



「藍銅鉱」と「岩群青」

写真2. 岩絵の具とその原料

現在実施中のサイエンスショー「光の三原色RGBのヒミツをさぐれ！」では、光の三原色である赤色の光・緑色の光・青色の光を合わせてどんな色になるか等の実験を行なっています。また、インクで印刷する場合には色の三原色であるイエロー・マゼンタ・シアンという3色のインクを使ってさまざまな色の印刷をしています。しかし岩絵の具の場合には、紙の上に小さな石が並んでいるような状態ですので、光ともインクとも違う色の混ざり方となります。

これらの岩絵の具とその原料は、アトリウムで5月30日まで開催中の「蔵出しコレクション」でも展示しております。

長谷川 能三(科学館学芸員)